

シリーズ対談 (第4回) : 学士力を支える教養教育

公文 溥 [大学評価室長] × 太田 九二 [教育開発支援機構長]



法政大学における内部質保証の在り方を考える企画として「シリーズ対談」の第4回では、教育開発支援機構長に就任した太田九二教授にお話しをうかがいました。同機構の3センターのうちFD推進センターの取り組みについては、本誌第4号(第1回対談)で詳しくご紹介しましたが、今回は新たに設置された市ヶ谷リベラルアーツセンターと学習支援センターの取り組み活動も踏まえて、内部質保証への展望について語っていただきました。

公文 本日は、教育開発支援機構の機構長の太田九二先生に、お話を伺いたいと存じます。テーマは教育の質保証に関連する機構の取り組みについてです。まず機構は、全学的な教育支援施策の企画・開発等のFD活動支援を行うFD推進センター、市ヶ谷キャンパスの教養教育全体の基本理念・目的や共通カリキュラムの開発支援を行う市ヶ谷リベラルアーツセンター、教育・学習環境の整備と学生の主体的学習の支援のための全学的な施策の企画・提案・調整を行う学習環境支援センターの3つのセンターから構成されているということですが、各センターは具体的にどのような活動に取り組んでおられるのでしょうか。

太田 具体的には、FD推進センターでは、FDの啓発活動のためにシンポジウム・フォーラム・ワークショップ等の企画・実施を行い、教員の授業改善支援のために「学生による授業改善アンケート」やGPAの活用方法の検討と提案などを行っています。また、市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、教養教育の在り方やICT教育、英語教育などの教養教育の関する各種のプロジェクトを立ち上げ、教育の在り方を検討しています。さらに、学習環境支援センターでは、学習ステーションを立ち上げて、学生の主体的学習をサポートするためのハード・ソフト両面にわたる学習環境の支援を始めました。

公文 教育開発支援機構は、教育の質保証に関して、直接的に対応しておられるのですが、大学評価室では質保証の「質」は、学生の能力の育成と向上を担保することと考えております。こうした観点から全学的な質保証の側面と市ヶ谷キャンパス固有の課題の二つの側面について、どのような方向で推進されたいとお考えでしょうか。

太田 教育開発支援機構では、全学的な質保証と単位制度の実質化の観点から、FD推進センターのプロジェクトにおいて、各学部が進めている教育改革への情報提供と学士課程教育の再構築の取り組みをサポートして行きます。また、市ヶ谷キャンパス固有の課題としては、ここでの教養教育が学部横断的に行われていますので、そのメリットを生かし、共通カリキュラムの開発支援を積極的に取り組んでいき、さらに、これを全学的な方向に進めていければと思います。

公文 具体的には、どんな施策を実施しておられますか。

太田 具体的には、現在進行中の共通カリキュラムの開発支援プロジェクトとしては、ICT教育プロジェクトで、情報教育に関するガイドラインを作成しました。今後、これをベースにe-ラーニングの導入等を図っていきたいと考えています。また、教員の授業改善支援については、学内の各教学単位に特化したFDの推進や、「学生による授業改善アンケート」のさらなる有効活用も検討しています。学習環境支援センターでは、今年度まず、3キャンパスそれぞれの「学習施設ガイドマップ」を作成しました。さらに、今年度立ち上げた学生の学習活動を直接支援するための学習ステーションは、まずは市ヶ谷キャンパスでの活動が主体となりますが、今後多摩、小金井のキャンパスにもそれぞれのニーズに応じて、拡大したいと思っています。

公文 ありがとうございました。各学部は育成する人材像を持って、それにふさわしい能力形成のための教育を実施いたします。教育開発支援機構は、汎用的能力、倫理・態度といった重要な側面で、学部と協力しながら学生の能力向上に積極的な役割を果たすことを期待いたします。